

# 「THE DAIKON」全国一斉桜島大根栽培プロジェクト

鹿児島県垂水市立大野小学校 教頭 図師 弘秋

プロジェクトメインページ <http://cgi1.synapse.ne.jp/~daikon/>

キーワード インターネット，学校間交流，遠隔共同学習，総合的な学習

## 1. はじめに

桜島大根は、鹿児島県桜島で栽培されている巨大な大根である。これは、桜島特有の温暖な気候と火山灰を含んだ独特な土壌でしか育たないと言われている。しかし、本当に桜島以外では育たないのか。これまでも、子供たちの中からこのような疑問がよく出されていた。また、学校間交流を進める場合、子供たちが取り組みやすい共通課題の設定が重要である。子供たちにとってわかりやすく、親しみのもてる課題であることや各学校での共通実践が、一般的であり実施が容易であること等が大切である。

本企画では、全国一斉に桜島大根の栽培を行うわけであるが、「各学校で創意工夫して大きな大根を育てる」という活動内容は、単純明快であり、多くの説明を必要としない。また、前出のとおり、子供たちの素朴な疑問をベースにしているので、子供たちが強い課題意識をもって学習に取り組むことが予想される。さらには、ほとんどの小学校には、花壇や学校農園等が整備されているので、種子さえ入手できれば、どこでも栽培できるという利点もある。このことから、本企画は、学校間遠隔共同学習にふさわしいと考えた。

## 2. 参加校について

Web 上でのオーダーフォームによる一般公募も含めて、参加校は、下記の 12 校である。

穂別町立稲里小学校（北海道）、白石市立福岡小学校（宮城）、南陽市立中川中学校（山形）  
鹿嶋市立中野東小学校（茨城）、富山市立水橋中部小学校（富山）、上牧町立上牧小学校（奈良）  
宮崎市立本郷小学校（宮崎）、東町立鷹巣中学校（鹿児島）、出水市立西出水小学校（鹿児島）  
菱刈町立菱刈小学校（鹿児島）、垂水市立大野小学校（鹿児島）、伊仙町立鹿浦小学校（鹿児島）

## 3. プロジェクトの概要

プロジェクトのルール
1. 一斉に期日を決めて桜島大根の種まきをする。
2. 各学校で大根を育てる。
3. 観察記録や活動記録を各学校の web ページで公開する。
4. 期日を決めて一斉に収穫し、事務局に送る。
5. 事務局で大きさコンテストをする。
6. 一番大きな桜島大根を育てた学校には、優勝カップを贈呈する。

プロジェクトのスケジュール
7月 プロジェクトメインページ立ち上げ準備
8月 参加校担当者研修会（大野小） プロジェクトメインページ立ち上げ プロジェクトメーリングリスト立ち上げ 一般参加校公募（web 上）
9月 桜島大根種まき
1月 桜島大根収穫，大きさコンテスト
2月 優勝カップの贈呈

## 4. プロジェクトメインページの工夫

本企画のメインページでは、各学校の観察記録（図 1）や活動記録へのリンクの他に、子供たちの情報収集や情報交換に役立つコーナーを盛り込んだ。また、子供たちに親んでもらえるようにするために、ゲームやクイズ等のコーナーも設置した。（図 2～3）

参加 12 校の子供たちは、自分たちの大根の様子を掲示板で知らせたり、ゲームやクイズに挑戦したりして、楽しみながら活動を続けていった。特に、掲示板への書き込み数は大変多く、そのメッセージからは、子供たちが相手を意識しながら意欲的に取り組んでいる様子がうかがわれた。この種のプロジェクト型交流学习では、掲示板は有効な情報交換の手だてである。



図 1 本郷小の観察記録

## E スクエア・プロジェクト成果発表会

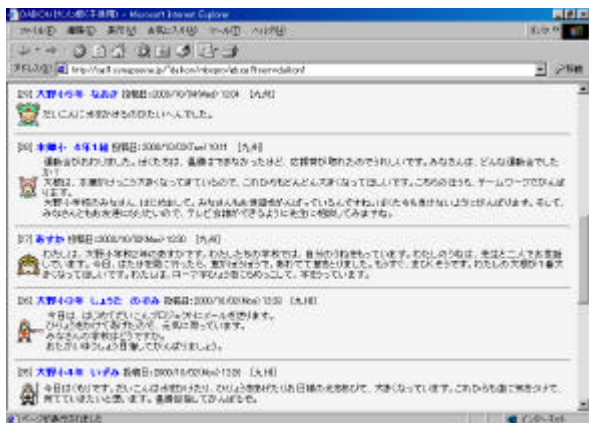


図2 DAIKON けいじ板 (子供用)

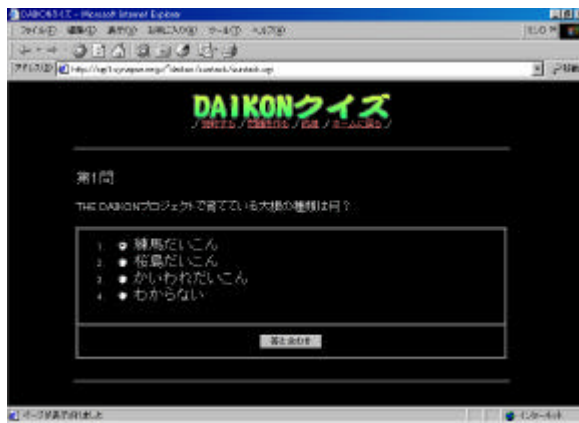


図3 DAIKONクイズ

## 5. 授業実践

### (1) テレビ会議による交流 (中野東小4年と本郷小4年) 10月16日

参加12校のうち、中野東小と本郷小は、テレビ会議による交流を行った。

本時は、「桜島大根の種まきからこれまでの育ち方について発表してもらいます。」という本郷小の司会者の一言から始まった。本郷小からは、種まきをして、芽が出たこと、間引きをしたこと、現在の様子などについて写真やビデオを使って説明があった。中野東小からは、これ以外にも種まき後に成育が思わしくなかったため、種まきのやり直しをしたことや桜島大根以外の大根について調べたことの発表があった。

お互いの発表の後は、質問・感想のコーナーになった。「初めて芽が出たときの感想は?」「根っこや葉の今の大きさは?」「間引き後に残っている本数は?」など、きわめて活発な質疑応答がなされた。同じテーマで同じ活動をしているだけに、子供たちの質問内容や回答は、具体的であり、やりとりも真剣そのものであった。両校では、収穫後に再度テレビ会議を行う予定である。その際は、桜島大根の現物を持ち込んで、「大根自慢」をするそうである。

### (2) 全校創意活動「大きさコンテストをしよう」(大野小, 参加学年: 2年~6年, 児童数: 9名) 1月23日

各学校で育てられた桜島大根は、宅配便で事務局の大野小に送られてきた。大きさコンテストをして優勝校を決めるためである。

さて、本時のめあては、「送られてきた桜島大根の重さや周りの長さを調べて、掲示板で知らせよう」というものである。箱を開けて、送られてきた桜島大根を取り出した子供たちは、さっそく分担して重さや周りの長さをはかり始めた。「おもしろい形をしているよ。」「根っこが何本も出ているよ。」「重いなあ。」作業をしながら子供たちの会話ははずむ。

子供たちが計測した結果は、黒板の一覧表にまとめられた。

「鹿浦小と本郷小の4年生の大根は、同じ重さだよ。」

「じゃあ、周りの長さの長い方を優勝にしよう。」

活動の後半では、審査結果をメインページに設置してある掲示板に書き込んだ。余談だが、コンテストの期日や時間は、事前に知らせてあったので、参加12校の中には、掲示板への書き込みを今か今かと待っていた学校もあったそうである。

優勝は、宮崎市立本郷小学校の4年生。残念ながら大野小は、優勝を逃してしまった。しかし、子供たちの中からは、本郷小の子供たちへの称賛の拍手がわき起こった。



図4 掲示板に書き込む

## 6. まとめ

「桜島大根は桜島以外の土地でも育つのだろうか?」そんな素朴な疑問からスタートした本企画である。日照りや長雨、雪の多い地方では積雪などにも悩まされながら、全国の子供たちが夢中になって桜島大根の栽培に取り組んだ。「大きいのを育てるぞ。」「優勝するぞ。」子供たちは、いつもやる気満々であった。

ところで、収穫は終わったが、本企画は、ここで終わったわけではない。今度は、「おいしい大根料理コンテスト」が待っている。各学校では、子供たちの創意工夫を生かした愉快な大根料理が作られることになるだろう。

桜島大根が広げる交流の輪。大きく広がることを期待している。